

自己評価票

【自己評価の意義・目的】

- 自己評価は、事業者自らが主体的にサービスの評価を行い、サービスの提供状況を見直すことにより、サービスの質の向上を図るシステムの1つです。
- サービスの質の向上は、この自己評価をはじめ、事業者の取り組みを第三者の目で確認して評価を行う外部評価や第三者評価、苦情解決制度や権利擁護制度、さらには、アンケート調査等による利用者からの声の反映、オンブズマン機能などが相まって実施されることにより達成されるものです。
- この自己評価の結果を公表することにより、利用者にとっては、客観的な指標、判断材料として事業者の選択に役立つものとなります。

記入年月日	平成20年6月23日									
法人名	株式会社 ライフパートナー									
代表者(理事長)名	和田嘉治									
介護保険事業所番号	2	7	7	5	8	0	1	9	3	5
サービスの種類	・ 認知症対応型共同生活介護									
	・ 介護予防認知症対応型共同生活介護									
事業所名称	グループホーム アムール平野・Bユニット									
事業所所在地	大阪市平野区背戸口1-12-10									
記入担当者職・氏名	(職) 管理者		(氏名) 赤崎 智子							
連絡先電話番号	06-6706-4165									

自己評価項目構成

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

【自己評価の実施方法】

- 運営者(法人代表者等)の責任の下に、管理者が従業者と協議しながら実施してください。
- 「評価項目」ごとに評価をしてください。
- その判断した理由や根拠のポイントを記入してください。
- 少なくとも、年に1回は自己評価を実施してください。
- 優れている点や改善すべき点などの特記事項についても、別途、記録しておいてください。
- 改善すべき事項については、改善のための計画(任意様式)を作成してください。
- 利用者やその家族等が今後、サービスを受けようとする時の情報として、この評価結果を利用できるように、利用申込者又はその家族に交付する重要事項説明書に添付の上、説明するとともに、事業所内の見やすい場所に掲示するなどし、評価結果を積極的に公表してください。
- 評価結果及び記録等は、評価を完了した日から3年間は保存してください。

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<ul style="list-style-type: none"> ・愛のある我が家のような生活をめざします。 ・自由な環境を創造します。 ・安心と信頼のホームを実現します。 を理念に掲げている。 ・「我が家で普通に暮らしている」そんな気持ちを大切に支援している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員に理念、運営方針、事業内容など書面にて説明している。理念をフロアー内に掲示している。 ・会議、朝礼等で理念を目指して取り組むように促している。 ・日々の声かけ一つにも理念を目指していけるように指導している。 	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回ホーム発行(家族向け)の「アムールだより」に理念を掲示している。 ・フロアー内に掲示している。 ・ホームページに記載している。 ・スタッフの日々の行動で実践しご家族や地域の方々にご理解頂けるようにしている。 	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・朝、施設の前夜の道路の清掃をしている。 ・施設染みない違和感のない制服を全職員着用しアムールの職員として認知していただけるよう努力している。 ・お庭で育てたお花見せて頂き会話につながっている。 ・気軽に立ち寄って頂ける雰囲気づくりを心がけている。 ・近所で遊んでる子供たちがトイレをかりにくる。 	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回の古紙回収に参加している。 ・町内会に加入している。 ・町内会の催し(だんじり祭り・もちつき)に参加している。 ・地域の民生委員の方が民謡のお稽古に来てくださっている。 	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>・地域の高齢者の暮らしに役立つことがあれば積極的に実践して行きたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>・指摘事項の改善に取り組む。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・兼務職員をつくり、配置している。 ・スタッフの不満不調を最小限に抑え、離職につながらないように努めている。 ・勤務の希望はスタッフ個人の状況を把握し反映している。 		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を積極的に行っている。 ・法人内の研修会を行っている。 (管理者会議・計画作成担当者会議・相互研修) ・他事業所からの研修生を受け入れ意見交換が出来る場を作っている。 		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回 同区のグループホーム連絡会を開催し交流や意見交換をしている。また研修会を開催しスタッフ同士の交流の場所を作っている。 ・研修などで交流後、相互訪問しさらに交流を深め相互の向上の為の情報交換などを行っている。 ・研修会の講師をお受けしている。 		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフにアンケートを実施しストレスが見られる状況があれば、軽減の為の方策を話しあっている。 ・松田クリニック(併設クリニック)のドクターからアドバイスを頂いている。 ・休憩室を工夫している。 		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・努力や実績に応じ、報酬、昇格に反映できるようにしている。 ・プロセスチェックシートを作り、それを基に代表とスタッフ個人が面談を行っている。 ・スタッフの実力に応じた特命業務をしてもらうことにより、責任を持って働ける環境を作っている。 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・利用相談の段階から相談記録として記録に残し、ケアプランや判定会議の資料として用いている。 ・各利用者担当性を用いており各々で情報収集を行っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・相談記録として記録に残し、ケアプランや判定会議の資料として用いている。 ・随時相談に乗っている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談記録を用いその都度応じたサービスを相談しながら検討している。 ・本人の状況、ご家族の状況を理解し本当に必要なサービスが提供できるように対話を重ねるようにしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・顔なじみの関係がある程度出来るよう訪問機会を増やしたり等創意工夫を行っている。入所当初は慣れて頂くことを第一に考えている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・生活の中で、調理を行ったり四季折々の行事等を行う事により、人生の先輩の意見としてとらえている。 ・「共同生活介護」の意味をスタッフと考えスタッフと利用者が上手く支えあえる関係を築けるように努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・各担当者を決め、リーダーを含め家族との連絡を行うように努めている。 ・困った内容があればご家族も一緒に考えて頂くようにしている。 		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・面会簿、管理日誌、個々の記録にて面会者の把握に努めている。頻度の少ない家族に関しては随時電話等にて連絡報告を行っている。両者の思いを理解し、時に調節しながら支えていくように考えている。 		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関や喫茶店、理美容店等なじみの場所がある方に対してはそこに行く様に努めている。 		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事や団欒等が円滑に行えるようテーブルやソファの設置をしている。 ・利用者間の人間関係構築は様々な役割分担で関わりあっている。また、個別表にて個々の対応について随時明記されている。 ・利用者それぞれが支えあうことの重要性をスタッフと話している。 		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	<ul style="list-style-type: none"> ・必要とされている方には、定期的に電話連絡などを行っている。退所後も、新しいサービスの利用にあったっては関係者に情報を提供している。 ・必要があれば訪問している。 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・担当制用いており、各々の生活暦や趣味活動などの把握に努め提供している。出来ない事を補うのではなく、この先どのように生きて行きたいかを知り、前向きなプランの作成に努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用前の相談の段階から生活暦や社会資源などを把握することに努めている。 ・日々のコミュニケーションにより情報を得るよう心がけている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・日々熱計表やカルテに記入に心身の状態や健康状態等の把握に努めている。 ・ささいな表情の変化も見逃さないように、気づける力をスタッフが持てるように指導している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	・カンファレンスを管理者・計画作成担当者・担当者その他関係者とで開催している。 ・必要に応じて、ご家族、Drを含めた話し合いの場を作っている。 ・必要に応じて、本人も参加している。	○ ・カンファレンスへのご家族の出席いただける機会を増やして行く。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・必要に応じてカンファレンスを実施しその時々に応じた計画を作成している。 ・必要に応じて、ご家族、Drを含めた話し合いの場を持ちその状況に柔軟に対応している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の記録をカルテに残した些細な情報は報連相ノートに記載し情報の共有に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・家族、本人と相談しその時々々に応じた可能な限りの対応を一緒に検討している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・警察署、消防署に緊急時の対応を随時訪問し依頼している。 ・地域の民生委員により民謡のお稽古を実施して頂いている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・特別養護老人ホームの希望については、他の事業者と連携し提案している。 ・訪問看護により必要な方にはリハビリを実施している。	○	・必要なサービスを地域ぐるみで話し合える事業所間の協力体制を作りたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・地域包括支援センターに研修会開催時の機材を貸していただいた。 ・地域包括支援センターに研修の参加の声かけをした。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時や通院時の対応を随時行っている。 ・松田クリニックと連携しいつでも連絡可能な状況がある。必要に応じて、ご家族の希望を直接Drにお伝えすることができる場を作っている。 ・受診時、前回受診以降の状況をお伝えするための情報書をお渡ししている。 		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な利用者に関しては、専門の医師（心療内科医・精神科医）と連携を図り対応を行っている。 ・併設クリニック（松田クリニック）のドクターが認知症について積極的に取り組まれている。 		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護と密に連携を図り健康管理に努めている。 ・併設クリニックの看護師と顔なじみの関係ができています。 		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関のSWや医師と密に連携を図り環境の変化が最小限で抑えられるように努めている ・入院時、必要な情報を提供している。 ・退院後の方向性について、ドクター 家族ホームとの面談を実施している。 		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<ul style="list-style-type: none"> ・主治医、家族、ホーム、関係者とカンファレンスを実施し対応や必要事項の確認、捺印を行い対応を行っている。 ・終末期における施設への要望、Drへの要望をご家族と話し合う機会を作っている。 		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期をその人らしく過ごす事ができるよう可能な限りの環境を整えるよう努力している。 ・見取りのマニュアルを作成している。 ・かかりつけ医 家族 ホームとの面談を実施している。 ・できること できないことの方性を決めている。 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・入院する場合は担当者に介護サマリーを渡している。 ・面会可能な方に関しては、定期的に面会に行っている。介護支援経過表に記載している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・個人情報保護に関する方針を書棚に貼り事業所の方針を周知している。 ・管理日誌にも個人情報保護に関する方針を用意しスタッフが日々確認できるようにしている。 ・個人情報は鍵のかかる書棚に保管している。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・各々の利用者の能力に応じたことに対して時間をかけ対応している。また、自信を持っていただけるよう配慮している。 ・自分が決めて行動することの大切さをスタッフと話し合って声かけを工夫している。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・食事時間や、入浴時間、回数はできるだけ各利用者に合わせるように柔軟に対応している。 ・日々の予定を決めず、利用者の希望に合わせて時間を作るようにしている。 ・利用者の希望を優先することが望ましくない場合も納得していただけるように話をしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・月に1回の訪問美容の前には毛染め、パーマなどのヘアスタイルを一緒に考えている。 ・お化粧品を一緒に買いに行っている。 ・季節に応じたおしゃれを楽しめるように支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事やおやつ可能な限り共同で調理している。 ・買い物はほぼ毎日一緒に行っている。 ・週に一回利用者の希望の食事を提供している。 ・テラスで野菜作りをし収穫しどんな料理を作ろうか一緒に考えている。 ・デパ地下にてその時食べたいものを購入する時もある。 		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・おやつ お酒等の購入は一緒に行っている。 ・希望の方には、晩酌を楽しんでいただいている。 		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な方に関しては排泄チェック表を作成しさりげない誘導を行っている。 ・熱計表にて全員の排泄を把握している。 ・夜間など間に合わない方についてはポータブルを用意している。 		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・各々の利用者に応じて時間の融通を行っている。 ・ご自分で好きな入浴剤を選んで入浴されている。 ・好きなお湯の温度、量を把握し希望に沿っている。 		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・覚醒時間や睡眠時間のチェックを行っている。 ・眠れないときは、その原因の究明に努め気持ちよく眠れる環境を作る。 ・ご自宅で眠るときに抱いていた人形などを用意していただいている。 ・ご自分の使い慣れた肌に合う寝具を使用されている。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・衣、食、住、遊を共に可能な限り行っている。 ・水やりや野菜作り等、楽しみごとを作っている。 ・生活暦、体力を考えそれぞれ個別に対応している。 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個々にて小遣を家族より預っている。職員の管理の下自由に使用している。 ・買い物時できる限りご自分で支払って頂いている。 ・本人用の財布を個人で管理している方もいる。 		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の喫茶店や店舗などに買い物や散歩に行っている。 ・できるだけ希望時に外出できるようにしている。 		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生日には本人の希望の場所に出かけるようにしている。 ・遠方の墓参りなどを希望された場合はご家族に伝え、出かける機会を作っていたできるようにしている。 		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・希望に応じて、電話していただいている。 ・書かれた手紙をご自分で投函していただけるよう支援している。 ・手紙のやり取り時、お写真を用意しお手紙に添えて頂くようにしている。 ・ご自分のお部屋に電話をお持ちの方もいる。 		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・面会時は居室等にて過ごしていただいている。自由にお茶を飲んでいただける環境を提供している。 ・ご家族、友人との外出も自由にして頂いている。 		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束のマニュアルを目の届く場所に保管し常時確認できるようにしている。 ・随時話し合う機会を持ち、身体拘束をしないケアをしている。 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・1階から3階へは自由に行動できる。 ・ご自由に回覧板をお隣に持って行って頂いている。 ・玄関の植木の手入れ時は開放している。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・外部からの危険も検討し少しずつ鍵をかけないケアに取り組んで行きたい。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーを確保しながら見守りを行っている。 ・玄関にモニターを設置している。 ・行動パターンを理解し、その方に応じた安全確認の方法を話し合っている。 		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・注意の必要な物品を使用して頂く際は、スタッフも一緒に行っている。 ・本人が出来ると思っておられる場合、無理になくしてしまうことのメリット、デメリットを考え、一人一人の状態に応じた対応をしている。 		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・各居室に煙探知機を設置している。 ・その方に応じた環境を提供している。 ・スタッフに吸引器の使い方の指導をしている。 		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全員が「普通救命講習」を修了している。 ・緊急時対応マニュアルを作成している。 ・併設クリニックDrにより24hオンコールの対応ができる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・応急手当普及員の講習を受ける予定がある。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に地域の消防隊と連携を図り避難訓練を行っている。 ・地域の代表が利用者数、建物の構造を理解して下さっている。 ・地域の代表が緊急時の連絡方法を知っている。 ・折に触れ、利用者の方と災害対策について話している。 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・カンファレンスにて周知を行いケアプランにて家族に説明を行っている。 ・起こりうるリスクの可能性についてご家族と十分話し合い、必要であればDrを含め対応策を検討している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・異常の早期発見に努める為熱計表にて全利用者の記録を行い情報の共有に努めている。 ・異常の発見時は、スタッフ→管理者→Drとの連携体制が整っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・カルテに処方された薬説明書をファイルし周知している。 ・新しく薬剤の変更がある場合、資料を用意し注意すべき内容を全員で確認している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・乳酸品の提供や内服薬の管理を行っている。 ・必要に応じてマッサージを行っている。 ・利用者に合わせた適度な運動をして頂いている。 ・水分の摂取状況を確認している。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・義歯はポリデント等にて洗浄している ・提携歯科にて口腔ケアを実施している。 ・口腔ケアの重要性についてスタッフと話し合っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分摂取量、食事量は熱計表にて管理を行っている。 ・栄養管理は栄養士がメニューを作成し1日約1500～1600kcalの摂取量としている。 ・糖尿病の方は別途管理している。 ・状態や力に応じて、内容や環境を考えて支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	<ul style="list-style-type: none"> ・感染対策としてマニュアルを用意している。 ・毎日、次亜塩素酸ナトリウムにて消毒している。 ・スタッフ全員が消毒液を携帯している。 ・研修会に参加し、報告書等にて全員に周知している。 		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・台所内のマニュアルを作成し周知徹底している。 ・研修会に参加し、報告書等にて全員に周知している。 ・管理担当者を決めてのチェック体制が出来ている。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関先に花を植えている。 ・木製の表札を使用し固い印象にならないようにしている。 ・エントランスには絵や花があり、親しみやすい空間になるように配慮している。 		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングには暖色系ライトを設置している。 ・季節感のある花を玄関に並べている。 ・テレビや音楽の音量は不快に感じない音量にしている。 ・季節のいい時はテラスを開放し、光や風で季節を感じて頂けるようにしている。 ・家庭的な調度品にしている。 		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングにはソファをテラスにはテーブルと椅子を配置しており思い思いの場所で過ごしていただけるようしている。 		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の愛用していた物を極力持ち込んでいただ けるよう支援している。 ・他必要な物品がある場合は一緒に買い物に行き 購入している。 ・ご家族の写真、ご自分で描かれた絵などお好き なものでお好きなお部屋を作っている。 		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・全室換気扇有り日中換気している。 ・気になる所には芳香剤を安全な場所に設置。 ・冷暖房は全室チェックを行っている。(マニユ アルあり) ・毎朝窓を開放し、新しい空気を取り込むよう にしている。 		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・移動動線上には手すりを配置している。 ・必要に応じて車椅子、歩行器、手押し車を利用 していただいている。 ・クッションフロアーにしている。 		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよう に工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・些細な事から取り組み日々自信が持てるよ うな事を個々の利用者にて取組んで頂いている。 		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・テラスで家庭菜園をしている。 ・隣接の公園が1つの休憩の場になっている。 ・テラスにベンチとテーブルを用意し、夏場など ビアガーデン等をしている。 		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・理念の愛と自由にむけて日々取り組んでいる。
- ・運営推進会議の場においても直接意見の交換をし希望を伝え地域の方と利用者との交流の場が出来てきた。
- ・併設の医療機関(松田クリニック)があることにより医療面において安心できる環境がある。
- ・家族の面会が多く十分にコミュニケーションがとれて、話しやすい関係ができている。
- ・スタッフと管理者とのコミュニケーションがとれ、ストレスを一人で抱えることなく勤務できている。